

勝浦市

「一〇〇年以上猛暑日知らずの街」
新たな避暑地として次代へ」

「猛暑日知らずの街、千葉県勝浦市からお送りします——」

もはや、夏の風物詩となった感すらある勝浦市からのお天気中継。

数年前、連日の猛暑がメディアを騒がす中、某報道番組に「二〇〇年以上猛暑日知らずの街」として取り上げられたのをきっかけに、一夜にして勝浦市は注目を浴びることになりました。

以来、いつときの涼を求める方々、あるいは安寧の地として移住を検討する方々からの問合せが本当に多くなりました。

「猛暑日知らずの街」の称号は、いわば勝浦市を取り巻く



自然環境がもたらしてくれた恩恵のひとつで、この好機を逃さず、観光振興や移住促進につなげようと、官民が連携しながら取り組んでいるところです。

観光地のブランディング

観光振興においては、400年以上の歴史を持ち「日本三大朝市」のひとつに数えられる「勝浦朝市」を、朝の涼しい時間帯に食べ歩きなどができる

「朝活スポット」としてもリブランディングするなどし、話題性が増しています。

また、一段と涼を感じられる海岸沿いに点在する「海中公園」や



「鵜原理想郷」などを、涼風吹く景勝地としてPRしています。

「注目の移住先」として

移住促進においては、様々なメディアで「今注目の移住先」として紹介される機会が多くなったことを受け、多彩な企画を織り交ぜながら、二日移住体験ツアー「移住の学校」を開催するなど、積極的なPRを展開しています。

そうした中、子育て世代の移住希望者のニーズに応えることを目的のひとつとして、子ども子育て施策を専門的に扱う「こども未来応援課」を新設しました。

新しい勝浦ブランドへ

勝浦市は今後も、伝統に寄り添いながら時代のニーズを把握し、アップデートを重ねていきます。

君津市

君津ならではの魅力を活かして
愛着と誇りを育てるまちづくり

房総半島のほぼ中央に位置する君津市は、東京湾アクアラインを使えば都心から車で1時間と、アクセスに恵まれたまちです。東京湾に面する北西部は、日本最大の鉄鋼メーカーが操業する一方、内陸部には朝日が差し込むと水面にハート形の光が浮かび上がる「濃溝の滝・亀岩の洞窟」など、房総丘陵の豊かな自然が広がっています。



また、今年4月にはプロ野球・千葉ロッテマリーンズのファーム本拠地の移転先に決定するなど、新たなプロジェクトも始まっています。

君津が生んだ唯一無二の文化資産

市民の愛着や誇りの醸成、本市の知名度やイメージの向上に向けて君津ならではの魅力を広く発信しています。その一つが、市出身の松本新吉氏が創業し、戦前に日本三大ピアノメーカーとして名を馳せた「松本ピアノ」です。効率より音色を重視し、職人の手作業にこだわったピアノづく

りは、「スウィートトーン」と呼ばれる柔らかな甘い音色が特徴で、見栄えの山葉・音色の松本と評されました。



現在、市役所応接室にピアノを設置し、市長のトッププロモーションを展開するほか、各種メディアやSNSを活用し、松本ピアノの魅力を積極的に発信するなど、露出機会の増加に取り組んでいます。

愛着と誇りを育てるプロモーション

松本ピアノをはじめ特徴的な景観や新たなまちづくりなど、君津ならではの魅力を幅広く発信し、君津に「こんな魅力があったんだ」「住んでいてよかった」「行ってみよう」と思ってもらえるようなシティプロモーションに取り組んでいきます。

八千代市

人がつながり未来につなぐ
緑豊かな笑顔あふれるまち
やちよ

八千代市は、千葉県の北西部に位置し、市域の北側には水田や里山などの豊かな自然や田園風景が広がり、南側は京成本線及び東葉高速線の鉄道沿線を中心に市街地が形成されています。都心から約30kmという利便性から首都圏のベッドタウンとして発展を続け、快適さと自然の豊かさを兼ね備えた都市として、今では人口20万人を超える都市に成長しました。

新たなにぎわいの創出

令和6年4月に、本市と千葉市、佐倉市、独立行政法人都市再生機構など、17の関係団体で「千葉うみさとライン」協議会を設立し、東京湾と印旛沼をつなぐ花見川と新川流域一帯の魅力を高めるプロジェクトを開始しています。「ちばの、ちかばの、あそびば」をコンセプトに民間と行政が連携して水辺のア



香取市

地域の魅力を再発見
スローシティの推進

香取市は、北部に利根川が東西に流れ、その流域には、水郷の風情漂う水田地帯が広がり、南部は山林と畑を中心とした平坦地で北総台地の一角を占めています。豊かな水と肥沃な土地、そして温暖な気候に恵まれていることから、農業が基幹産業となっており、特に米とサツマイモは関東でも有数の生産地となっています。また、マッシュルームの生産量が日本一であり、市内の飲食店でも工夫を凝らしたマッシュルーム料理が提供されています。



「スローシティ」の推進

香取市では、第2次香取市総合計画で定める将来都市像「豊かな暮らしを育む 歴史文化・自然の郷 香取」が輝き、人が集うまちとして、その実現に向けたまちづくりを進めています。香取市ならではの地域資源や個性を磨き独自性を発揮することで、市内外の認知度を高め、個性と魅力あるまちづくり

クティブティの楽しさや地域資源の魅力などを発信しています。7年5月には「うみさとフェス2025」として、本市では、道の駅やちよで「うみさとフェス」道の駅やちよを開催。八千代市消防音楽隊や地域で活躍するミュージシャンの音楽、メガSUPやキャンプ体験などのアクティビティ、テイクアウトグルメなどで、水辺空間と非日常の風景を楽しみました。

総合的な「ほどよし」のあるまち

令和7年3月に、市の魅力をわかりやすく伝えるキャッチコピーとロゴマークを市民の意見をもとに制作し「ほどよし。やちよし。」に決定しました。本市の環境の総合的な「ほどよし」をストレートに表現し、ほのほのとした雰囲気の花文字が、都市機能や自然などの様々な魅力に囲まれている様子を表しています。

今後も、本市の魅力でもある「ほどよし」を活かした魅力的なまちづくりを進めてまいります。



に取り組んでおり、その主な取組として、スローシティの理念を取り入れたまちづくりを推進しているところです。スローシティとは、イタリア共和国発祥の、地域の歴史文化・自然を大切にしながら等身大のまちづくりを目指す運動です。

具体的な活動として、令和6年11月に慶應義塾大学と連携協力協定を締結し、大学生が地域の伝統行事や活動に参加しながら地域の魅力を再発見する地域研究を行っています。この活動を通じて、市民の皆さまにも、我々の日常生活が貴重な地域資源であること、誇れる魅力あるものだという



ことを再認識して頂くことで、シックプライドの醸成にも繋がっているところです。